

バーチャル見学型

学校外の施設の方に協力をしてもらい、タブレット PC を通して、児童に施設内部を見学させる形態の授業。児童が自ら知りたいと思ったことや疑問に思ったことを中心に質問し、相手に答えてもらうことができる。

| 観 点                | ポイント                                                                                                                                                     |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現場音への対策            | 接続先（工場・施設等）の現場音が大きいため、接続先にいる話し手の声がきこえにくくなる。そのための手立てとして、ホワイトボードを導入し、お互いにきこえないときには筆談で伝え合い、音による弊害の解消を行った。また、接続先に単一指向性マイクを利用してもらうと、話し手の声がクリアにきこえる。           |
| 学習空間の設定            | 流れてくる情報が多岐にわたるため、児童が映像に集中できる空間作りが大切。椅子・机の有無、児童が自由に移動できる空間など、見学内容によってレイアウトを変化させる必要がある。                                                                    |
| リアクションに対する指導者の働きかけ | 接続相手は、子どもと接する機会が少ない方もいる。そのため、児童とのコミュニケーションがとりづらい場合がある。接続相手には、一方的な説明だけではなく、児童への問いかけなどをしてもらえよう、事前に十分な打ち合わせを行う必要がある。児童には接続相手との会話に対して、相手に伝わる表情や反応をするよう指導が必要。 |



ゲストティーチャー型

通常の授業形態と同様だが、遠方にいる講師とテレビ会議システムを使って行う形態の授業。多様な人材の方にゲストティーチャーとして授業をもらうことで、専門的な知識が増え、自分たちの世界を広げることができる。

| 観 点            | ポイント                                                                                                                                                                 |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 指導者による児童の理解の補助 | ゲストティーチャーと児童との関わりは、その授業のみであるため、児童の実態の把握が難しい。そこで、指導者は児童とゲストティーチャーをつなぐ役割を担わなければならない。<br>接続中は情報が早く流れていってしまうため、児童が重要な情報を聞き逃さないように、また、学習の全体像が見えるように板書し、情報を可視化して共有する必要がある。 |
| 調べ学習ができる環境づくり  | この学習形態では、新しい知識や発見を得ることが多い。そこで、自主的にそれを調べることができるような環境、例えば、キーワード検索がすぐにできる PC、地図帳、辞書などを整えることが大切。                                                                         |



ライブ授業の Point

ワークショップ型

児童と接続先が一緒に交流し、共同で何かを制作したり、ゲームなど活動に参加したりする授業の形態。

| 観 点    | ポイント                                                                             |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------|
| ルールの共有 | 通常の授業よりも活動の場面が多く自由度も高い。そのため、事前に話す順番や多元中継の場合は接続の順番を決めておくなどのルールを設定し、接続先と共有する必要がある。 |



合同授業型

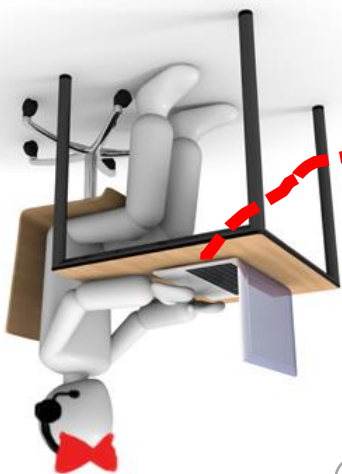
テレビ会議システムを使い、離れた教室と同じ授業を受ける授業の形態。

| 観 点    | ポイント                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の一体感 | この学習形態の際に指導者は「画面向こうの児童に対して伝わっているのか」という不安感をもつ。一方児童は、画面を挟んだ接続先からの話に対しては必死に聞こうとする傾向がある。そのため、メインの指導者がいる学校の児童が、学習空間から外れてしまうことがある。どちらか一方の学校が授業を進めるのではなく、メインの指導者を入れ替えながら授業を進めることが必要である。<br>カメラの配置も重要である。特に前に出て発表するときには、同じ教室の児童同士が向き合えるようにカメラを設置することがポイントである。これらを考慮することで、2校の児童が一体感をもって学習に取り組むことができる。 |





# 美術科



御所市立名柄小学校 トラの巻

これがあったら  
**A**ねん!  
ライブ授業

使用機器



パソコン:デスクトップ型・ノート型・タブレット型どれでもいいですが、カメラが内蔵されていない場合は、Web カメラが別途必要。

これさえあればいいモノ

あったら便利なモノ

Microsoft ワイヤレスディスプレイアダプター:機器が増えるにつなぐケーブルも増える。複雑に絡む有線を1本でも減らす、無線HDMI。



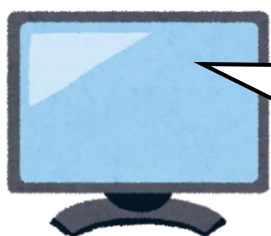
集音マイク&スピーカー:子どもたちの小さなつぶやきもバッチリ拾ってくれる。ハウリング予防にもなっている。(YAMAHA YVC-1000MS)



Web カメラ:PC にカメラが内蔵されていない場合は、必要。名柄小では使い慣れた書画カメラ(ELMO 社のみエルもん L-12i・L-12iD)を使用。ズームもでき便利。



大型モニター(TV):PCとつないで、相手の様子・自分たちの様子を映し出す。



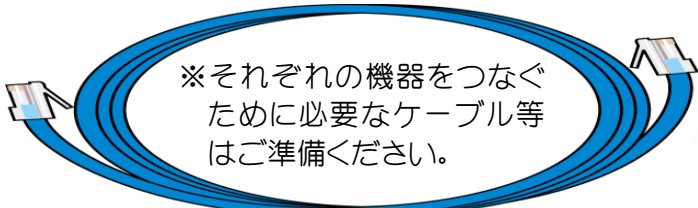
単一指向性マイク:周囲の音を入れず、音声をクリアにしたいときに使用。Bluetooth 接続のカラオケマイクはスピーカーもついていて秀逸。



インタラクティブPJ&ホワイトボード:通称ホワくん。ホワイトボードの画面を他拠点と共有。教材の共有、双方向からの書き込みができる。合同授業の黒板として使用。(EPSON EB 1460UT)



※それぞれの機器をつなぐために必要なケーブル等  
はご準備ください。



・「同じめあて」「同じ課題」で学習  
同じ学習内容での授業  
・離れた教室【学校】で、

・児童同士で話し合いができる  
・たくさんの友だちと一緒に授業ができる

point

教師中心



合同授業型



グループ型

Skype 先の人と、一緒に活動・共同で作業

お互いが参加体験できる  
活動していることを紹介しあう

point

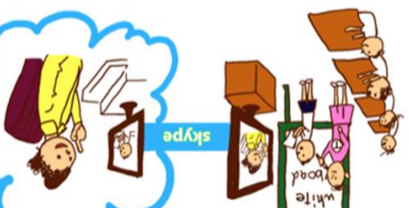
児童中心

・近づいてもOK  
・その場で質問してもOK  
・よりくわしく知ることができる

point



ペア学習型



ゲストティーチャー型

通常のゲストティーチャーを  
招いての授業と同じ

point

来てもらわなくても、  
教えてもらえる

・子どもたちが見学できない場所・制限される場所の見学  
・見学した後、新たな疑問についての質問

質疑応答

ライブ授業 4 分類